

募 集 要 項

氏 名：高尾義明	研究室：未定
専 攻 分 野：経営組織論、組織行動論	
演習テーマ：さまざまな視点から組織を分析する	E-mail：takao.yoshiaki@gmail.com

演習内容

この演習の目的は2つあります。第一に、企業組織を主な対象とした組織についての理論（経営組織論・組織行動論）を、実践的応用を想定しながら学ぶことです。現代は「組織の時代」です。ほとんどすべての製品・サービスは組織によって提供され、多くの人たちは組織に所属して働きます。そうした現代において、組織に関わる理論は応用範囲の広い教養的知識です。

第二の狙いは、組織の理論について学ぶことを通じて、知識を獲得し、生み出し、発信する方法を習得することです。知識社会である現代では就職した後も知識のインプット・アウトプットが不可欠であり、そのためのスキルを大学で磨くことはみなさんのキャリア発達に役立ちます（その最初のステップである就職活動にとっても有用です）。専門的な文献をしっかりと読みこなせるようになることから始め、ゼミ内外での発信、さらには卒業論文の作成などを通じて、知識を活用し創造するスキルを高めていくことを目指します。

現在予想されている技術の進化やそれに伴う社会の変化を踏まえると、そうした知の方法は（生成型）A Iによって大きく変わっていくでしょう。したがって大学生の間に（生成型）A Iを活用した学びを経験することが重要になると考えられます。そこで、この演習では学びのレベルアップのために（生成型）A Iを積極的に活用します。ただし、演習担当教員の専門分野は経営学（経営組織論、組織行動論）であり、A Iの専門家ではありません。ゼミでの学習に（生成型）A Iをどのように活用できるか、ゼミ生のみなさんと一緒に考えながらチャレンジしていきたいと思います。

<演習1・演習2>

経営組織論・組織行動論の基礎的なテキストを丁寧に読み、その内容をしっかり吟味してディスカッションすることから始めます（講読するテキストについては、ゼミ生のみなさんと相談して決めます）。理論的なものの見方がある程度修得できたら、企業のケース（現実の事例）を用いたディスカッションを行い、理論をどのように実践に適用するかを学んでいきます。

知識の発信については、レポート執筆とスライドを用いたスピーチを行い、お互いにフィードバックし合うことを通じて能力の向上を図ります。

<演習3・4>

より専門性の高いテキストにチャレンジしたり、より詳細なケース（事例）分析を行ったりするとともに、「外」に出ていきたいと思っています。「外」に出ていく活動をどのようなものにするかは演習1・演習2の期間にゼミ生のみなさんと相談しながら決めていきますが、他大学との合同ゼミ合宿、ビジネスコンテストへの応募、地域社会とのコラボレーションなどを想定しています。

<演習5・6>

就職活動の状況を踏まえながら、ゼミ活動の総仕上げとして卒業論文を執筆します。テーマごとにいくつかのグループに分かれ、切磋琢磨し合いながら執筆を進めます。

教員からの要望

- ・高尾ゼミの 1 期生として、教員とともにゼミを一緒に作っていききたいという学生のみさんのエントリーを期待しています。
- ・大規模教室での講義とは異なり、ゼミでは主体的に学ぶ意欲が不可欠です。また、文献の講読やレポート執筆などの事前の準備が必要であり、そうした準備をしっかりと取り組むことが必須となります。
- ・参加人数次第ですが、グループワークの比重が高くなりますので、グループで協力しつつ、その中で自分の意見を発信しようという姿勢を持つことが求められます。
- ・無断欠席・遅刻はゼミの学びの質を下げることに直結しますので、厳しい姿勢で臨みます。

履修希望科目

在学中に経営組織論（マクロ）、経営組織論（ミクロ）をどちらも履修してください。

教員の自己紹介

2025 年 4 月に着任するので、京都産業大学との関わりでいえばみなさんのほうが先輩です。大学教員としての勤務年数が四半世紀を超えましたが、大学卒業直後の数年間は企業で働いていました。

関西生まれ関西育ちですが、東京での大学勤務が長いため(2007 年 4 月～2025 年 3 月)、授業ではほとんど関西弁が出ないようになってしまいました。